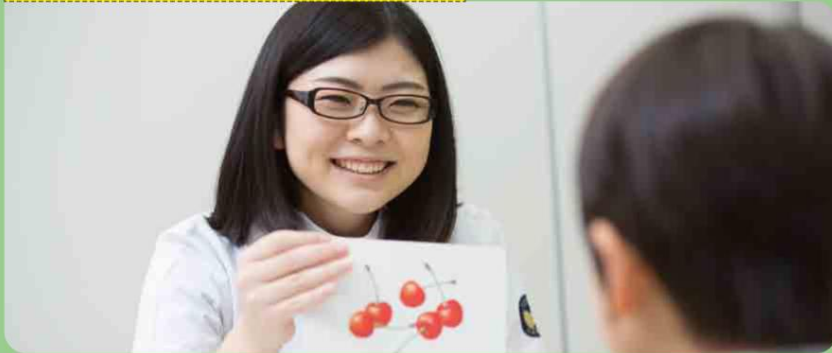


2016年4月新設 設置申請中

言語聴覚学科

定員40名
2年制

入学条件
4年制大学
卒業



言語聴覚士の やりがい

- 私たちは、どのようにして話したり聞いたりしているのか、どのように食べたり飲んだりしているのか、その仕組みを探求するトキメキ!
- 医療・福祉・教育にまたがるスペシャリストとして、生きていくのに欠かせない「コミュニケーション」や「摂食嚥下」の治療と指導を行う充実感!
- 障がいを持つ人たちの治療を通し、リハビリテーションの本質である「再び人間らしく生きていくこと」の喜びを分かち合う感動!

学科のポイント!

北海道リハだから学べる

01

チーム医療を在学中から体感

- PT・OT・STが中心となり、他の医療職とも連携して効果的にリハビリテーションを進めるチーム医療が、多くの医療機関などで行われています。
- 言語聴覚学科が新設されることで、北海道リハはPT・OT・STの3学科体制となり、在学中からPTとOTの視点や技術を目にする機会に恵まれ、チーム医療の基本が身につきます。

02

臨床経験豊富なベテラン教員が指導

- 言語聴覚療法の対象は、大きく成人、小児、聴覚の3分野に分かれます。
- 本学科は3分野それぞれを、10年以上の臨床経験を持つ専任教員が指導します。
- そのためSTが実際に働く臨床現場に近い教育を受けることができ、就職後の実践力が養われます。

03

姉妹校との教育連携

- 姉妹校には、医療・福祉・教育における専門家を目指す学科が多数あり、活発な情報交換が行われています。
- 歯科衛生学科、視能訓練学科、社会福祉学科、精神保健福祉学科、介護福祉学科など、お互いに話してみると、きっと興味を引く話題が多く、良い刺激を受けるはずですよ。

CURRICULUM

カリキュラムの特長

- 言語聴覚療法が対象とするのは、乳幼児から高齢者までの幅広い年齢とバックグラウンドを持つ人々です。そのため言語聴覚士には、専門的知識と技術だけでなく、基礎となる豊かな教養と洞察力が求められます。
- さらに、障がいに伴う心理的側面に配慮できる共感性を養うため、心理学およびリハビリテーションの精神について学ぶことにも重点を置いています。

1 年次

専門基礎分野

医学総論/解剖学/生理学
病理学/内科学/小児科学
リハビリテーション医学
生涯発達心理学/言語学
音声学/音響学
言語発達学 など

専門分野

言語聴覚障害学概論
失語症Ⅰ/高次脳機能障害
言語発達障害Ⅰ・Ⅱ/音声障害
機能性構音障害
運動障害性構音障害
聴覚障害Ⅰ/聴覚検査法
吃音/摂食嚥下障害
臨床実習Ⅰ(120時間) など

2 年次

専門基礎分野

精神医学/耳鼻咽喉科学
臨床心理学/心理測定法
社会保障制度 など

専門分野

言語聴覚障害診断学
失語症Ⅱ/失語症演習
高次脳機能障害演習
言語発達障害Ⅱ
摂食嚥下障害演習
補聴器・人工内耳
臨床実習Ⅱ(360時間) など

言語聴覚士とは

障がいからの回復や発達の促進などを医学的基盤により行う代表的なリハビリテーション技師として、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)があげられます。これらのうち言語聴覚士は、平成9年12月に制定された言語聴覚士法に基づく比較的新しい国家資格です。

目指す資格	言語聴覚士(厚生労働省国家資格)	取得資格	言語聴覚士受験資格
活躍のステージ	病院・診療所、介護老人保健施設、身体障害者・児童福祉関連施設、行政機関、教育・研究機関、地域・在宅リハビリテーション 他		

言語聴覚士の 仕事

言語聴覚士が行う仕事を言語聴覚療法といいます。言語聴覚療法とは、ことばによるコミュニケーション(話す・聞く・書く・読む)、摂食嚥下機能(食べる・飲み込む)、高次脳機能(知る・考える・記憶する)に障がいのある人たちの問題点を評価し、訓練・指導などを行うことです。

- | | | |
|--|--|--|
| 01 聴覚障害
全く聞こえない、聞こえにくい、音は聞こえても言葉聞き分けられない。 | 02 音声障害
声を出せない、かすれ声しか出ない、声質に異常がある。 | 03 構音障害と吃音
不明瞭な発音、どもる、なめらかに話せない。 |
| 04 コミュニケーション全般の障害
ことばの発達に遅れがある「言語発達障害」、脳損傷が原因となり「話す・聞く・書く・読む」に困難がある「失語症」。 | 05 高次脳機能障害
脳損傷により、注意・思考・記憶・判断・行動などに障がいがあり、社会生活の妨げになる。 | 06 摂食嚥下障害
飲食物を口に取り込んで飲み込むことに困難があり、むせたり、気管や肺に入ってしまう。 |

言語聴覚士が 取り組む 主な問題

年々高まる 需要と広がる 活躍の場

言語聴覚士の国家資格を持つ人は、2014年に約2万4千人とされていますが、多くのPT・OT・STを採用して、リハビリテーションに力を入れる医療・福祉機関は年々増えており、全国的に言語聴覚士の不足した状態が続いています。また、就職先は女性の多い職場が多く、育児のために長期間休んだり、いったん退職しても、職場復帰や再就職をしやすいため、安心して働けます。

医療
機関

老人
介護

児童
福祉

教育
機関